



暑中お見舞い申し上げます

年々暑さが厳しくなり体調管理が大変な夏を迎えています。

8月に思うことは、原爆投下・終戦記念日・お盆のご先祖参りと日本人としてゆっくり考える時期のような気がします。自分がここにあるのは、ご先祖様があってこそ感謝して毎日を過ごすことが大事なことと思います。

そんな中、彩花のスタッフはエアコンキャンペーンで頑張っています。

リピートのお客様が増えエアコン清掃が定着しています。スタッフのお客様との関係づくりがしっかり出来ると成長を感じ、お客様のご指示の賜と感謝申し上げます。



幸せになるためには「プラス思考」

人生を良くする力を持っているのが「プラス思考の考え」だと思います。ちょっと考え方を良い方向に変えるだけで人生が変わっていきます。「プラス思考」を身につける第一歩として、まずは「クヨクヨ悩まない」ことです。

言霊(ことだま)という言葉を知っていますか？言葉には霊が宿っていて、悪い言葉を使えば悪いことが起こり、良い言葉を使えば幸運が訪れるを昔から言われていました。いつも悪いことを考えていては幸せになれるはずがありません・・・マイナス思考の悪循環から脱出するためには、色々考えることをやめて体を動かす必要があります。

人は二つ以上のことはできません。まずは体を動かして悩む時間を自分に与えないことです。

何をすべきかを紙に書き出してみるといいでしょう。ちょっとした事がきっかけで気持ちが前に進んでいきます。幸せになるためにはまず何も考えず体を動かし、前向きな言葉を発するようにしてください。きっと幸せが訪れます。



自分を磨く

人の成長は、仕事とともにあります。趣味や娯楽が成長を促すことがほとんどないのは、なぜでしょうか。それは趣味や娯楽のほとんどが自己完結する世界だからです。仕事は、自己完結することはありません。顧客が価値を見出してくれなければ、何の成果にもなりませんし、成果を生み出すには、組織の内部で貢献というバトンをうまくリレーしなければなりません。

仕事のリレーの途中には、他人からの評価という大きなハードルがあります。ある基準をクリアしないと生き残れない、そんな厳しい環境を生き抜くには、日々の鍛錬、自己開発がかかせません。

「艱難汝を玉にす」といいますが、困難に立ち向かい、ひとつひとつ壁を乗り越えるところに事実があります。自ら新たな基準を設け、本気に仕事に取り組み、乗り越えたときに初めて見える世界があります。仕事は、自分自身を成長させる最適な道具なのです。



「艱難汝を玉にす」
(かんなんなんじをたまにす)

艱難にあうのは決して不幸なことではなく、これは人生経験の少ない人にとっての最高の良薬である。

エアコン洗淨 Q & A

- Q** エアコンの風量が前と比べて弱いのですが、エアコン洗淨で風量は上がりますか？
- A** お使いのエアコンの風量が弱い原因はいくつか考えられます。フィルターや熱交換器が汚れていて目詰まり、ファンに汚れがたまり風を作れない、それぞれが汚れていて埃などが詰まっていると、風の通り道が狭くなり、「風を吸い込めない＝風を吹き出せない」となります。
- Q** 室外機を洗淨する必要はあるのでしょうか？
- A** 必要です。室外機はエアコンの心臓部なのです。室外機を洗淨することによりエアコン各部の負担が軽減されて、スムーズかつ効率的に運転するようになります。室外機の熱交換器にホコリ、汚れがべったりと付いていると室外機が風を吸い込めなくなり、冷媒ガスの熱交換の効率が極端に悪くなり、故障の原因となってしまうのです。
- Q** エアコンを使用しない時期にエアコン洗淨は必要ですか？
- A** 冷房オフシーズンのエアコン洗淨をおすすめします。夏場や冬場にフル稼働したエアコン内部はホコリなどでとても汚れているのですが、ホコリのなかにはダニやカビ菌などが含まれています。そのままエアコンを使用しないということは、ダニやカビ菌にとっては絶好の温床となるのです。久しぶりにエアコンをつけたとき酷い悪臭がすることはないでしょうか？それは、以上のことが原因となっています。エアコン使用シーズンに洗淨することも大事ですが、次シーズンのことも考えて使用しない時期に洗淨することは重要です。



トリセツの時代

■トリセツで対話革命

けっこうはまっている言葉があります。「トリセツ」です。

最近のマイベストは『対話のトリセツ』という本(黒川伊保子著、講談社α新書)。

その帯には「職場・取引先・家庭、そして生成AIとの“対話”にも。あらゆる人間関係に使える究極のトリセツ、ここに登場!!」とあります。そのココロはというと、人間の脳には男性的なタテ型思考と女性的なヨコ型思考の2つがあって、それぞれの特性を理解し、2つの思考対話を繰り広げていけば、閉塞感を超え、創造的・共創的な関係をつくっていくことができるというものです。

もう一つ「あしたが変わるトリセツショー」というNHK番組にもはまっています。

生活科学情報エンターテインメントというふれこみです。食・健康・生活のいろんな話題を新しい観点(=トリセツ)で料理してくれ、生活の景色が一変する面白さに惹きつけられます。

試しにAmazonで検索してみると、「トリセツ」という言葉をタイトルに含む本の総数は392件もありました。

世の中はまさに「トリセツの時代」です。



■多様性と個人本位の社会

トリセツというのは取扱い説明書の略語ですが、これまでは家電や機器の扱い方を説明するマニュアルという意味でした。それが最近では自分理解、人間関係、生活、健康、教育など様々な領域に拡張されています。トリセツは今日、一つの文化的現象となっています。その背景にはトリセツを必要とする深刻な状況もあります。例えば、職場で上司と部下のコミュニケーションが成立しなくて困っているとか、お客の「カスハラ」が増え、社員のメンタルトラブルにつながっているといった話がよく聞かれるようになりました。

価値観が多様化し、個人本位の時代となるなかで、「話せばわかる」や「暗黙の了解」「空気を読む」では通用しない社会状況が生まれています。

職場、家庭、学校、地域コミュニティなどあらゆる領域で、多様性・個別対応を前提とした、柔軟な発想が求められています。その一つの解決手法がトリセツというわけです。

職場では「社長のトリセツ」「新人社員のトリセツ」、家にもどったら「妻のトリセツ」「夫のトリセツ」と言った具合です。とりわけサービス業では、その人の好みや性格などを踏まえ、客A、客B、客Cと個々のトリセツが手元にあると、お客様との距離感や信頼関係がぐっと向上していきそうです。

■自分を知る、相手を知る

トリセツは他者について特徴をまとめ、理解を深めるというだけでなく、「私はこういう人だからこう扱ってほしい」という「私のトリセツ」をつくり、周りに自己開示していくことで想像もしなかった変化が生まれそうです。妻が自分のトリセツを夫に、新入社員が上司に、子どもが親に...といった具合です。自身の性格、得意・不得意、感情のパターンなどを客観的にみつめ言語化することで、自己理解を深めるとともに、他者とのすれ違いを少なくする可能性が広がります。

多様性、個別性への配慮が求められる社会において「正解は一つではない」状況がますます増えいきそうです。これまでの常識や固定観念に縛られず、自分なりのガイドラインを持ちたいという個々人の欲求に向き合っていくことが重要になってくると考えます。「自分のトリセツをつくる」「相手のトリセツを知る」ということに遊びの要素も取り入れながらトライしてみたいと思う今日この頃です(らく)



事務所移転の
お知らせ

新住所：〒814-0164 福岡市早良区賀茂2丁目38番5号
電話番号 092-866-1644 FAX番号 092-861-6753
※電話番号とFAX番号はこれまでと変更ございません。

